京都市帝國大學法學科大學

經濟論叢

大正五年九月一日發行

第三號

第三卷

論說

聯合國經濟同盟ニ對スル我國ノ態度

法學博士 戸田 海市

國防稅ノ當否(一)

法學博士 神戶 正雄

でがゐつぎ・ひゆーむノ經濟學說(五)

法學博士 福田 德三

『座』ノ研究(二)

文學博士 三浦 周行

兌換券ト物價ト輸出入ノ關係ヲ論ズ

法學博士 小川 郷太郎

資本ノ眞概念ノ發展(三)完

法學博士 河上 肇

雜錄

小野塚牧野兩博士ノ新著

法學博士 福田 德三

不換紙幣流通ノ根據ニ就テ福田博士ニ答フ

法學博士 戸田 海市

ひゆつひあーノ經濟發達階段說ニ非ズ其創

法學博士 神戶 正雄

最低賃金ノ制度ニ就キテ

山本美越乃

日英ノ物價

法學士 河田 嗣郎

手ノ器用ト其脩養

法學士 財部 靜治

『通俗經濟文庫』卷一ヲ讀ミテ

法學博士 河上 肇

『瀧本誠一氏ノ草莽危言摘義解題ニ就テ』ノ補遺

鈴木券太郎

(載 轉 禁)

『座』ノ研究(二)

三浦周行

日本ノ商工業ニ於ケル座ハ經濟史上重要ナル位置ヲ占ム。コレニ關シテハ既ニ故文學博士橫井時冬氏ノ日本商業史、日本工業史、芸窓襍載所收屋號考、故遠藤芳樹氏ノ日本商業誌、法學博士福田德三氏ノ日本經濟史論、及ビ我邦中古商業ノ「座」ニ就テノ雜見(明治四十四年六七月)等ノ著書及ビ論文ニ依ツテ敘述シ若シクハ研究セラレ、近クハ經濟大辭書第三冊(明治四十五年一月)ニ於テ柴謙太郎氏ガ未定稿トシテ是等ノ諸說ニ對スル批評ト研究ノ一端トヲ發表セラレタリ。余自身ハ鎌倉文明史論(明治四十二年一月)ニ載セタル鎌倉幕府ノ財政ニ於テ鎌倉時代ノ商業ヲ説キ、戰國時代史論(明治四十三年二月)ノ戰國時代ノ法制ニ於テ同時代ノ商業特ニ座ト本所トノ關係及ビ樂市樂座ノ特質等ヲ説キ、又安土桃山時代史論(大正四年三月)ノ織田豊臣二氏ノ法制ト財政ニ於テモ此時代ノ商業ニ論及セリ。是等ハ何レモ當面ノ問題ニツイテ一般ノ讀者ニ時代ノ概念ヲ與フルヲ目的トセシモノナレバ概括的説明ヲナスニ止マリ一々之ガ根據タルベキ史實ヲ舉グルノ違アラザリシナリ

一昨年十月ノ事ナリキ。余ハ滋賀縣安土村淨嚴院ニ開催セラレシ蒲生郡史料展覽會ヲ參觀シテ圖ラズモ中世ニ於ケル同地方ノ座ニ關スル多數ノ古文書ヲ見ルコトヲ得タリ。是等ハ何レモ同郡

中野村字今堀ナル日吉神社ノ所藏ニ係リ、蒲生郡誌編纂委員中川泉三氏ノ新ニ探訪セラレシトコロナリトイフ。其後十一月更ニ同氏ノ好意ニ依リテ日吉神社ニ至リ、前日ヨリハ稍詳シク其内容ニ關シテ考究ヲ重ネシ結果座ノ研究上、多大ノ寄與スベキモノアルヲ知レリ。蓋シ從來座ニ關スル史料ハ概ネ都會ノ商業ニ局限セラレ、偶戰國時代ノ奈良ノ座ニ關スルモノ大乘院寺社雜事記ノ類ニ詳シキモ、ソハ殆ンド其本所トノ關係事項ニ限ラレタリ。サレバ其研究モ亦コレニ伴ウテ自ラ都會ニ偏シテ地方ニ簡疎ナルノ譏ヲ免レザリシナリ。然ルニ此新發見ノ文書ハ悉ク地方商業ノ座ニ關スルモノニシテ、而カモ京都ヲ始メ他ノ地方ニモ關係ヲ有シ、殊ニ最モ喜ブベキハ座其者ノ記録タルノ一事ナリトス。故ニ余ハコレヨリ聊カ此新史料ヲ中心トシテ座ニ關スル研究ノ結果ヲ報告セントス。

一

此文書ハ全部得珍保ニ關スルモノナリ。得珍保ノ名ハ今傳ハラズ。其保内八郷トイヒ又單ニ保内トモイヘルヲ見レバ、多クノ部落ヲ包容セルモノナルヲ知ルベシ。而シテコレヲ現今ノ村落ニ當ツレバ蒲生郡ノ中部トモイフベキ中野村市ノ邊村ノ東部、玉緒村ノ西部ニ當リ、八日市ノ南ニ流ルル保内川ヲ北境トセルガ如シ。永祿年中ノ文書ニ野々川ト小幡トノ交通路ニ關スル爭ヲ載セタルモノアリ。野々川ノ地名ハ今ニ存セス、里人モ亦其所在ヲ辯ゼズト雖ドモ、文書中、石塔、野野川、小幡、沓懸ト列記スルモノアリテ、石塔小幡間ノ地ナリト推セラレ、野々川商人ハ愛知川以北ニ市賣ヲナサズトイヒ、又同一事實ニツイテ小幡、保内ノ爭結ンデ解ケザリシコト既往ニモ

アリタレバ、余ハコレヲ得珍保内ノ地ニ擬セントス。

此ノ文書ノ特徴トモイフベキハ市場、座等其時代ノ商業ニ關スル資料ノ極メテ多キコトナルモ、現今ニ於テハ此地方民ハ單ニ農業ヲ營ムモノニシテ、何等遺跡ノ傳ハルモノナク書中ノ事實ヲ質スモ、コレニ答ヘ得ルモノトテハ一人モナシ。故ニ直ニ文書其者ニツキテ考究スルノ外ナキナリ。

地理ヲ案ズルニ、此地方ハ所謂蒲生野ノ中央ニ當レリ。實曉記(元祿元年閏六月二十四日寫)自京鎌倉マテノ宿次ノ次第ニハ武佐ヨリ二里愛智川ニ一里ノ處ニ蒲生野アリ。サレバココハ中_二近ク湖水ニモ遠カラズ、千草越ニ依リテ伊勢ニ赴クベク、交通不便ナリシ當時ニアリテハ四通八達ノ要衝ニシテ、商業ノ發達スベキ要素自ラ備ハレリト謂フベシ。從ツテ是等ノ文書ノ内容モ得珍保ノ商取引ノ及ボス範圍内ニアリテハ獨リ近江トイハズ、若狹、伊勢、美濃、乃至京都ニ關スル資料ヲモ含メリ。コレヲ交通史上ヨリ觀察スルモ、是等ノ文書ハ實ニ得易ラザル貴重ノ史料タルヲ失ハザルナリ。

三

是等ノ市場ノ中何レガ最モ古キ歴史ヲ有スルヤトイフニ、永祿頃(同時ノモノト思ハルル保内商人ノ申狀ト裏端書ニ永元十二月一日進上申跡書ト題セルモノアレバ其頃ノモノト認ムベキニ似タリ)ノ小幡(神崎)ヨリノ申狀ニ長野郷(愛智川ノ北)一日市之事、當國稅市にて候、昔人脈成清々申人和州三輪の市をまなひ被立_{さか}立_か申傳候、毎年正月十一日に立初候、御_(服相)ふく_{其カ}あい物_{其カ}口外座入等_{其カ}みほしすわふ松かまりにて市神祇申候、就_レ其座之次第有_二古實_一儀候、

ト見エタルヲ事實トスレバ、長野市ヲ以テ近江ノ市ノ權與トナスベシ。次ニ其最古ノ文書ト看做サルルハ得珍保ノ所謂保元二年十一月十一日ノ院宣ナリ。其文左ノ如シ。

手印〇小兒ノ手ノ如ク小ナリ

宣下 近江國保内商人等

三千疋馬事

右商人等、東日下、南熊野之邊、西鎮西、北佐土島、於其中可任心條、依敕慮執達如件、

保元二年十二月十一日

此文書ハ錦囊ニ納メテ珍藏セラレ居ルモノナガラ、文書ノ様式ヲ具ヘズ、勿論院宣ト稱スベキモノナラズ。文章ノ拙劣ナル後ノ僞作ニ係ルハ言フ迄モナシ。應永三十三年七月四日小幡住民申狀ニ保内ノ主張ノ誤レルヲ指摘シタル中、保内ガ院宣ヲ賜ハレルヨリ商人ノ總領タルベシト主張スルハ商人中ノ曾テ採用セザルトコロナリ、下賜ノ院宣ハ商人中ノ共有(總物)トシテ金柱宮ノ寶藏ニ納メシニ紛失セリトイヘバコレヲ拾ウテ所持スルモ掠領ナリトイヘリ。然ルニコハ其院宣ナリトモ見エズ。文龜二年八月十日九里員秀ノ狀ニ保内ト横關市ト御服座ヲ争ヒ一時保内ガ院宣等ノ支證ヲ有スル爲メニコレニ勝チシコトアリ。是時ノモノトスルモ亦拙劣ニ過グ。然ラバ何時シカ本書ノ失ハレタル後ニ於テ、近世更ニ此僞作ニ出デシモノナリヤトイフニ亦必ズシモ然ラザルガ如シ、其他ニ於テ年代ノ明記サレタル文書トシテハ文應元年三月十五日小幡ノ商人ガ近江伊勢兩國商人間ノ訴訟費用ヲ負擔セザル爲メ向後伊勢國ヘ行商スベナラストノ誓狀及ビ文永二年十一月八日小幡ノ商人ガ保内ヨリ南ヘ行商セザルコトヲ誓ヘル誓狀アリ、建武四年七月二日足利尊

氏(源朝臣ト見ニ)ト思ハルル下文ニ、雙巖倉德法師ノ勳功ヲ賞シ弘安九年ノ下文ニ任セ護袋紙座津町相物等ノ諸役ヲ免除スト見エタル弘安九年ノ下文ハ本書ヲ傳ヘザルモ、時代モ左迄古カラザレバ疑ノベキニアラザルベシ。是等ノ數通ヲ外ニシテハ少數ノ南北朝時代ノ文書アリ、而シテ應永以後ノ室町時代殊ニ戰國時代ノ文書ハ其大多數ヲ占メタリ。

四

市ハ又市庭トイヒ市ヲ立ツルヲ立場トモイフ。市ニハ地名ヲ冠セルアリ、立市ノ日ヲ冠セルアリ。是等ノ文書ト同時代ノ他ノ文書トニツイテ此地方ノ市ノ名ヲ求ムルニ、

長野市 五日市 (愛智川南宿領内) 枝村市 新市 出路市 愛智川 中橋市

甲斐四十九院市 高宮市 尾生市

平方市 箕浦市場 箕浦惠福寺文書應永三十三年十二月八日 惠福寺建立狀

馬淵市

八日市

横關市 日吉神社路口ニ江州蒲生下郡桐原郷内横關市庭若宮大明神路口也ト見ユ

島郷市

金森市場 (守山)

高島南市庭

市ニハ座アルヲ原則トスルヲ以テ市座トイフ。貞和元年三月二十日ノ折紙ニ雖無市座云云トアリ、親元日記別錄寛正四年四月二十六日ノ内談ニ平方市座トアルモノ亦コレナリ。座ニ屬スルモノ

ヲ座衆中若シクハ座人ト稱シ市奉行若シクハ沙汰人ノ指揮ヲ受ケテ一定ノ營業稅ヲ納メテ商業ヲ營ム。サレド座ナキ市ニアリテハ他地方ノ商人ノ任意ニ來ツテ營業ヲナスヲ許セリ。(應永三十四年十二月十一日源貞定狀)

座ハ皆或ル制限ノ下ニ專賣ノ特許ヲ有スルモノナリ。永祿元年ノモノト覺シキ小幡及ビ五個ヨリノ申狀ニ

商賣ニ付而昔は御院宣或山門之御下知等被_レ下置_レ族侯、雖_レ然充_レ樣の以_レ筋目_レ世上ほしいまゝに商買不_レ被_レ成事に候、國々津港各別に立場候て商買仕候、商買のしな數多ある儀候、何も其座々に立入せ、きあい候、市賣里賣迄悉差別次第商買道の古實に候

トアルハ少クトモ戰國時代ニ於ケル市場及ビ座ノ制ヲ觀ルニ足レリ。即チ當時ハ地方ニ、處々ニ各種ノ商品ヲ販賣スル市場アリ、又商品ニハ各座アリ、互ニ其與ヘラレタル大小ノ特權ヲ支持セントスルニ全力ヲ盡クセリ。商人ハ市場ニ集リ來リ若シクハ村落ニ行商セリ。而シテ其市賣ト里賣トヲ問ハズ一般ニ排他的傾向アルヲ免レザリシハ自衛上當然ノ手段タリシナリ。

今此地方ノ重モナル座ヲ列擧セバ左ノ如シ。

鹽

得珍保ニハ鹽商人アリ。(貞和元年三月二十日長野甲良平方市奉行連醫折紙)鹽ハ何レノ地方ヨリ仕入レタリシヤ明ラカナラザルモ、保内ノ商人ハ屢若狹ニ往來セルヲ以テ、恐ラクハ同地方ヨリ仕入レシモノナルベシ。弘治二年三月十九日良秀ノ藤田新右衛門ニ宛テタル書狀ニ近江四所ノ商人ニ限リテ

鹽ノ買出ニ來ルヲ許スベシト見エタルガ、此新右衛門ハ恐ラク小濱ノ奉行ナルベシ。

紙

紙ノ商業ニツイテハ二ツノ異レル座アリ。一ハ枝村ニシテ、一ハ保内ナリ。枝村ハ愛智郡ニアリテ現ニ上枝、下枝ニ分ル。此地紙ヲ産出セザルヲ以テ美濃大矢田土岐、伊勢桑名、尾張大島、近江小谷小島口等各地ヨリ仕入レテ販賣ス、(九月二十六日枝村申狀)就中枝村ハ紙ノ本座ニシテ專ラ美濃紙ノ販賣ヲ取扱ヒ、京都寶慈院ニ公事錢(寶慈院ノ公用ト稱ス)ヲ納メテ京都、美濃及ビ近江ニ於テハ(蒲生郡石寺新市ヲ除キ)其專賣權ヲ有シ、古來諸公事免除ノ特典ヲ享有セリ。コレ枝村本座ノ外、寶慈院雜掌、美濃紙座ノ均シク主張スルトコロニシテ、朝廷、幕府共ニコレヲ認メタリ。天文二十一年十一月二十四日佐々木氏奉行ノ下知狀ニ枝村本座ガコレニツイテ往古以來數通ノ證文ヲ帶ストイフモ、本文書及ビ寶慈院文書ヲ收メタル京都御所東山御文庫文書ニ據レバ、應仁三年以前ニ遡ルコト能ハズ。(護袋紙座ニツイテハ建武四年七月二日足利尊氏ノ下文アリテ弘安九年下文ヲ引クモノ、ソハオノツカラ別ナリ)當時地方ヨリ京都ニ運送スル紙ニ向ツテハ諸國運送商賣紙荷駄別公事役ノ名ニ於テ商人ヨリ坊城家ニ公事錢ヲ納ムル義務アリ、枝村ノ美濃紙モ亦此諸國ノ駄別役ニ混セラレントセシヨリ、天文二十二年四月十一日寶慈院雜掌ノ訴ニ依リ、幕府ハ紙問丸ニ令スルニ自後舊ノ如ク枝村ノ公事錢ハ寶慈院ノ代官ニ交付センコトヲ以テシ、守護モ亦自餘ノ紙商人ニ混ズルコトナク舊ノ如ク諸役ヲ免除スルコトトナセリ。(天文二十二年三月二十六日下知狀)

然ルニ得珍保内ノ商人モ亦古來公許ヲ得テ別ニ紙ノ販賣ヲ業トシ、保内紙ト稱シテコレヲ近江